



I 第7週の発生動向 (2026/2/9~2026/2/15)

- インフルエンザについては、三戸+八戸市保健所管内及び上北保健所管内で**警報**が継続しています。また、下北保健所管内の定点当たり報告数が新たに**注意報レベル**となり、東津軽+青森市保健所管内、中南保健所管内及び西北保健所管内で**注意報**が継続しています。県全体の定点当たり報告数が再び増加していますので、引き続き新型コロナウイルス感染症の予防も兼ねて、ワクチン接種を含めた基本的な感染対策の徹底をお願いします。
- 水痘については、東津軽+青森市保健所管内の**注意報**は**解除**となりました。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎」です。最終ページに掲載しています。

II 第7週五類定点把握対象疾患

※記載データは、速報値です。

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

は警報、は注意報。「空欄」：患者報告無し。

		東青 (東津軽+ 青森保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+ 八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週 からの 増減
		数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	
急性 呼吸器 感染症	インフルエンザ	117	10.64	189	18.90	416	41.60	103	17.17	525	58.33	75	12.50	1425	27.40	180
	新型コロナウイルス感染症	14	1.27	43	4.30	55	5.50	24	4.00	43	4.78	30	5.00	209	4.02	2
	急性呼吸器感染症	664	60.36	492	49.20	674	67.40	333	55.50	889	98.78	463	77.17	3515	67.60	13
小児科	RSウイルス感染症	2	0.33					1	0.20	1	0.17	2	0.50	6	0.18	-8
	咽頭結膜熱	3	0.50	2	0.33	5	0.71							10	0.29	4
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	17	2.83	29	4.83	21	3.00	10	2.00	8	1.33	10	2.50	95	2.79	40
	感染性胃腸炎	19	3.17	21	3.50	33	4.71	18	3.60	1	0.17	1	0.25	93	2.74	-14
	水痘			1	0.17	2	0.29	1	0.20	1	0.17	1	0.25	6	0.18	-14
	手足口病															0
	伝染性紅斑			1	0.17					1	0.17			2	0.06	1
	突発性発しん	2	0.33			2	0.29			3	0.50			7	0.21	4
	ヘルパンギーナ	2	0.33									1	0.25	3	0.09	3
	流行性耳下腺炎															0
眼科	急性出血性結膜炎															0
	流行性角結膜炎															0
基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0
	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															0
	マイコプラズマ肺炎							1	1.00			5	5.00	6	1.00	-2
	無菌性髄膜炎															0

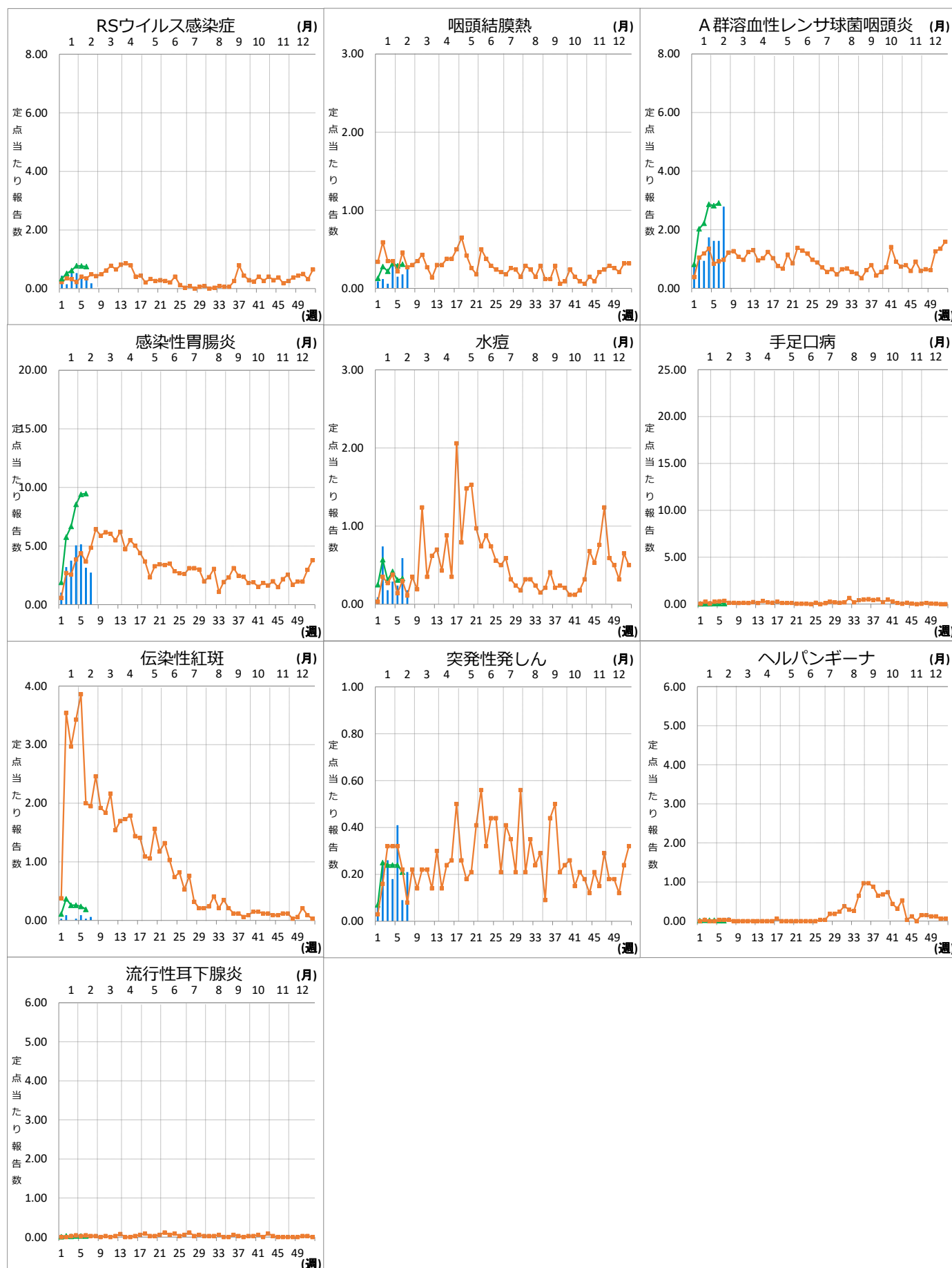
III 定点把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2026年第7週、ただし全国は前週)

グラフの説明 は2026年青森県、 は2025年青森県、 は2026年全国

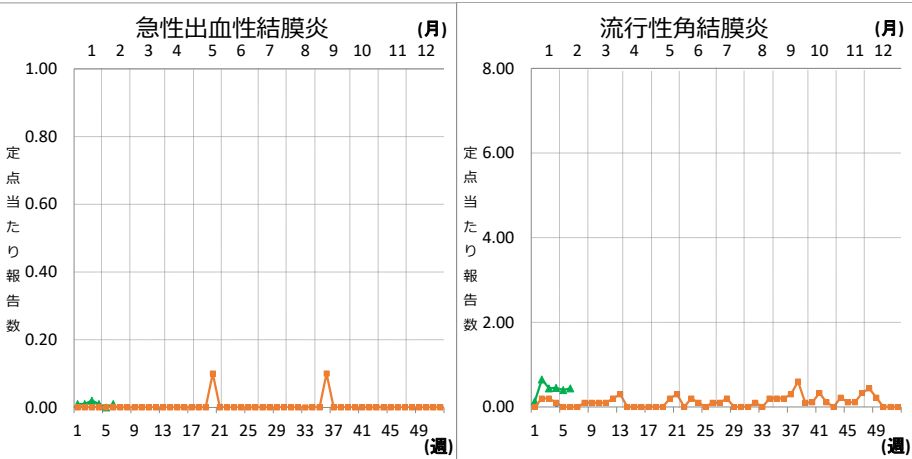


Ⅳ 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2026 年第 7 週、ただし全国は前週）

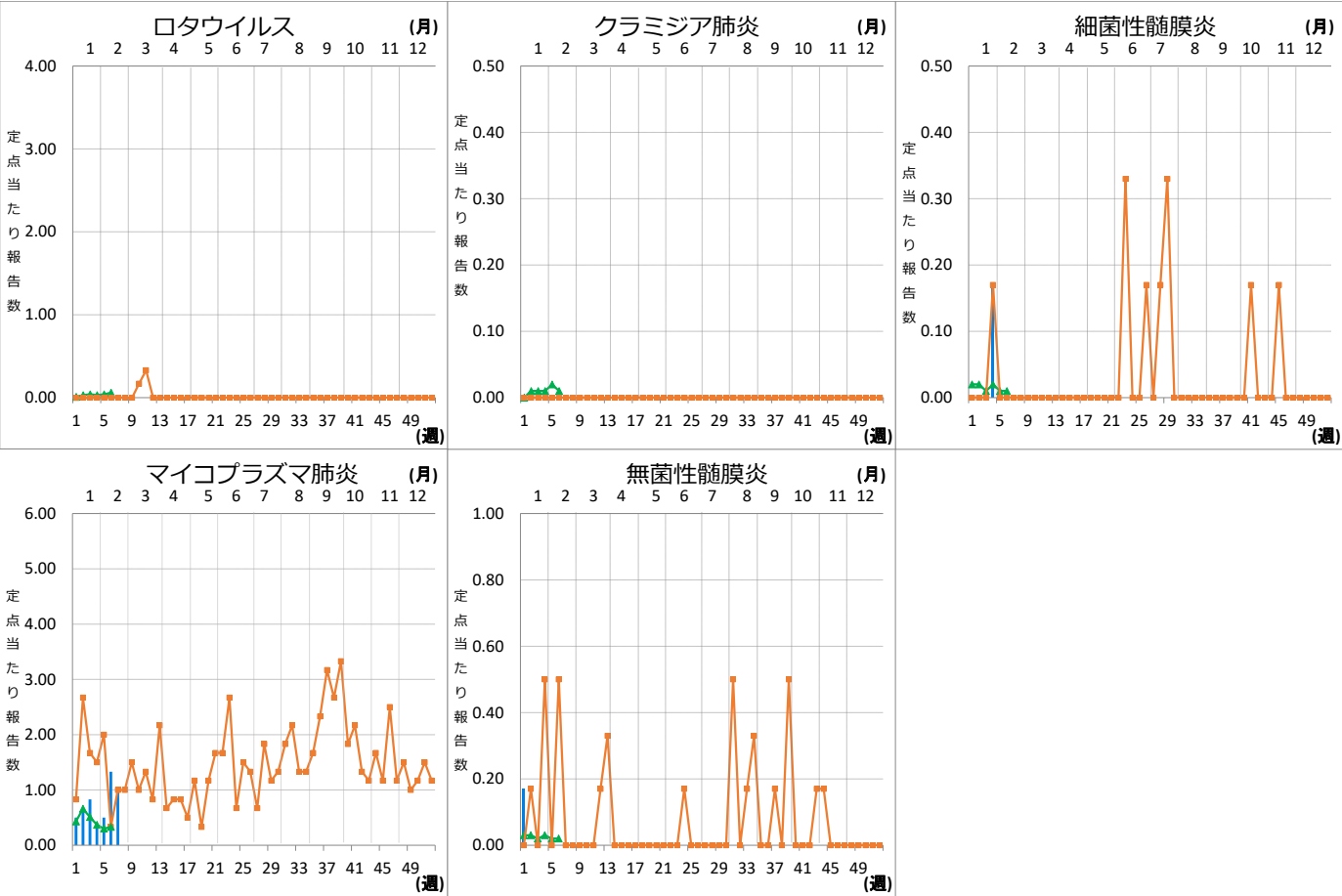
グラフの説明  —■— は 2026 年青森県、 ■——■ は 2025 年青森県、 ▲——▲ は 2026 年全国



V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2026 年第 7 週、ただし全国は前週）
 グラフの説明👉——は 2026 年青森県、■——■は 2025 年青森県、▲——▲は 2026 年全国



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2026 年第 7 週、ただし全国は前週）
 グラフの説明👉——は 2026 年青森県、■——■は 2025 年青森県、▲——▲は 2026 年全国

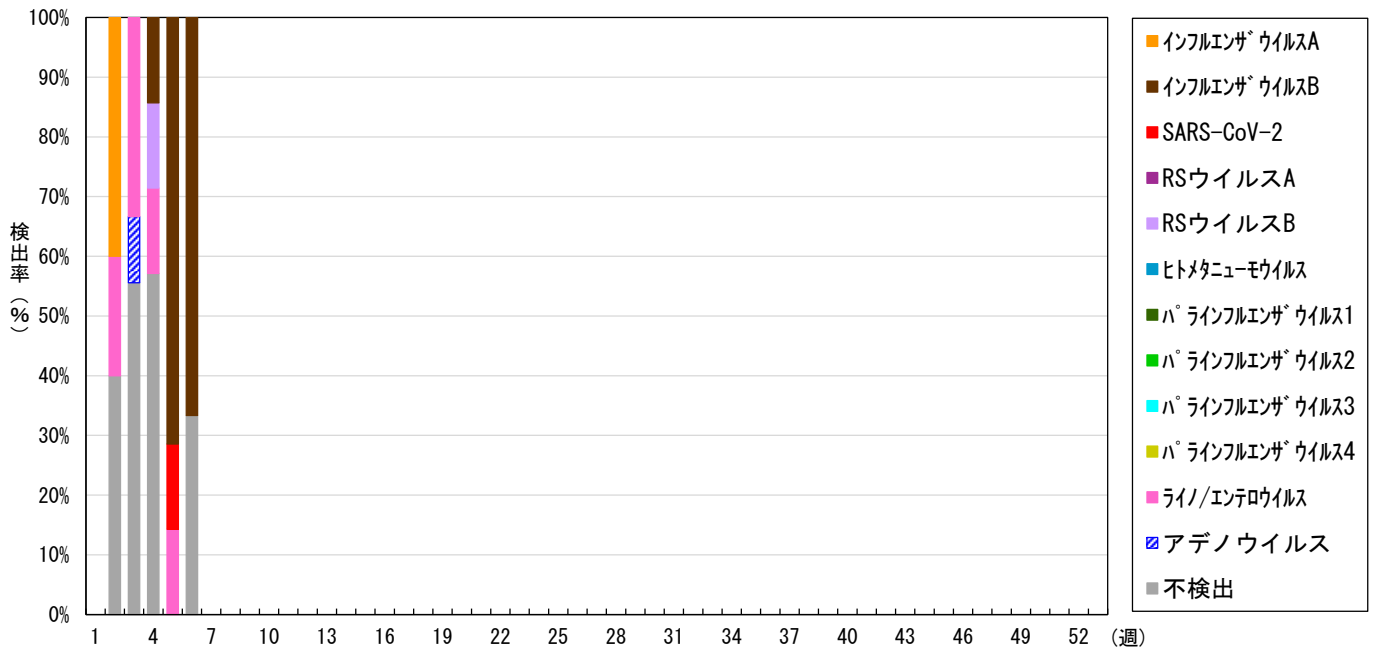


VII 急性呼吸器感染症 (ARI) 病原体検出情報

(1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2026 年第 1 週～7 週)

急性呼吸器感染症	2026年							
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週
提出検体数	0	5	9	7	7	6	8	
インフルエンザウイルスA	0	2	0	0	0	0		
インフルエンザウイルスB	0	0	0	1	5	4		
SARS-CoV-2	0	0	0	0	1	0		
RSウイルスA	0	0	0	0	0	0		
RSウイルスB	0	0	0	1	0	0		
ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	0	0	0		
パラインフルエンザウイルス1	0	0	0	0	0	0		
パラインフルエンザウイルス2	0	0	0	0	0	0		
パラインフルエンザウイルス3	0	0	0	0	0	0		
パラインフルエンザウイルス4	0	0	0	0	0	0		
ライノ/エンテロウイルス	0	1	3	1	1	0		
アデノウイルス	0	0	1	0	0	0		
不検出	0	2	5	4	0	2		
検査待ち	0	0	0	0	0	0	8	

(2) 検出された病原体の週別推移 (2026 年第 1 週～6 週)



VIII 全数把握対象疾患発生状況（第7週）

- ・腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）：中南1人、上北1人 (2026年計： 3人)
- ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症（五類感染症）：中南1人 (2026年計： 2人)
- ・侵襲性インフルエンザ菌感染症（五類感染症）：中南1人 (2026年計： 2人)
- ・梅毒（五類感染症）：青森市1人 (2026年計： 1人)

IX 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2026年第4週～2026年第7週）

週	東青 （東津軽保健所+ 青森市保健所）	中南 （中南保健所）	三八 （三戸保健所+ 八戸市保健所）	西北 （西北保健所）	上北 （上北保健所）	下北 （下北保健所）
4		侵襲性肺炎球菌感染症1人	結核2人			
5	百日咳1人	結核1人 侵襲性肺炎球菌感染症1人	百日咳1人		結核1人	百日咳1人
6	侵襲性肺炎球菌感染症1人		結核2人 百日咳1人			
7	梅毒1人	腸管出血性大腸菌感染症1人 劇症型溶血性レンサ球菌感染症1人 侵襲性インフルエンザ菌感染症1人			腸管出血性大腸菌感染症1人	

第6週に三戸保健所管内で結核1人の届出がありましたので追加しました。

X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2026 年第 1 週～第 6 週までの累計）

分類	二類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エムポックス	重症熱性血小板減少症候群	つつが虫病
累積報告数	1346	7	194	3	3	83	11	12	3	29
分類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	デング熱	日本紅斑熱	マラリア	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺	急性脳炎
累積報告数	13	3	3	207	2	49	21	112	6	48
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒
累積報告数	3	15	182	91	5	56	8	361	87	1065
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類			
疾病名	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症			
累積報告数	19	11	9	1267	1	32	4			

青森県（2026 年第 1 週～第 7 週までの累計）

分類	二類	三類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒	百日咳
累積報告数	11	3	2	2	4	5	1	5

XI 病原体検出情報

報告はありませんでした。

XII 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2026 年第 7 週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第7週	報告なし		

2026 年報告件数及び症者数

月(週)		1月	2月				3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
施設種別		1-5週	6週	7週	8週	9週	10-13週	14-17週	18-22週	23-26週	27-31週	32-35週	36-39週	40-44週	45-48週	49-52週	(施設別)
介護・老人福祉関係施設	件数	2	1	0													3
	発症者数	37	26	0													63
児童・婦人関係施設等	件数	4	0	0													4
	発症者数	92	0	0													92
障がい関係施設	件数	1	0	0													1
	発症者数	20	0	0													20
その他施設	件数	0	0	0													0
	発症者数	0	0	0													0
計(月別)	件数	7	1														8
	発症者数	149	26														175

感染症の窓

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A 群レンサ球菌が引き起こす上気道(鼻からのどまでの部分)の感染症です。2～5 日ほどの潜伏期間の後、突然の発熱、のどの痛み、全身倦怠感などの症状で発症し、嘔吐を伴うこともあります。舌が莓状に赤く腫れる「莓舌」が見られ、幼児期から学童期の小児に多いことも特徴です。また、掻痒感を伴う発疹が見られることもあります。

全国及び青森県における定点当たり報告数の推移は図のとおりです。全国、青森県ともに、冬から初夏にかけて報告数が多く、夏期には報告数の減少がみられますが、2025 年第 40 週以降から再び増加しています。青森県の 2026 年第 4 週の定点当たり報告数は 1.74 人/定点で、前週から増加しています。全国においても、2026 年第 2 週以降増加が続いていますので、今後の動向に注意が必要です。

主な感染経路は、飛沫感染と接触感染で、学校や保育施設などで感染が広がりやすい疾患です。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎にはワクチンはなく、予防には、患者との濃厚接触を避け、手洗いや手指の消毒、マスクを用いた咳エチケット等の基本的な感染対策が有効です。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

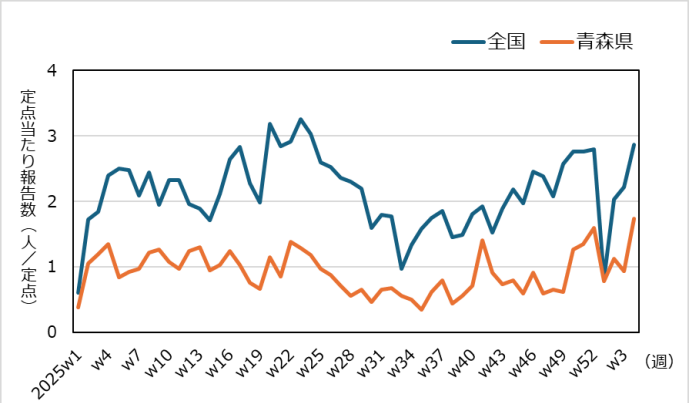


図 全国及び青森県における定点当たり報告数の推移 (速報値)

○詳しい情報はこちらをご覧ください。📄 [A群溶血性レンサ球菌感染症\(国立感染症研究所 HP\)](#)

